



## 法人化を迎えた看護大

副学長 小泉 美佐子

大学の法人化は前職の国立大学でも経験した。法人化前は国家公務員の身分や大学の管理運営に対して幾ばくかの不安があった。しかし、概ねそれらの心配は徒労であったと振り返る。法人になると大学の中期目標・計画を策定して、実施、評価を機動することになる。そのことで、教職員あげて大学の教育研究管理運営に智恵を絞る機運が生まれ、そうした機運が文部科学省の\*GP取得や専門看護師教育課程開講を順調にさせたといってもよい。国と県という違いはあるが、「大学の自己責任をもって」がより問われるのが法人化と考える。

公立大学法人になって先ずやりやすくなったのが、予算執行の縛りが緩和されたことである。研究費の支出で旅費や教材費といった種目間の流用が難しかったのが、配分された予算内の自由裁量で執行できるようになったことはメリットである。個人の自己責任が生かされる一端と言えよう。さらに言えば、大学全体の予算立ても先を見込んで智恵をいぼることが求められる。

私は法人化とともに副学長を拝命し、人事を担当することとなった。人事もこれまで県の人事規定の中で進めてきたため、採用人事等、段階を追って県に伺いを立てることに時間を要していた。その点、法人になると大学で定める規定にそって迅速に運べるようになる。人事面の改革は本学に着任したときから期することもあり、学長始め教職員の英知を借りて人事選考システムの改善を図りたい考えである。

次に、大学院研究科長の立場から教育、特に大学院看護学研究科の教育に関して触れたい。

平成25年4月現在で、全国に看護系大学は210校、大学院修士課程を有する大学は144校、博士課程を有する大学が71校と急速な増加をみている。一般社団法人日本看護系大学協議会では大学の質保証と関連して看護学基礎教育のコアカリキュラムを検討してきたが、

その検討は大学院の検討へ移っている。大学のカリキュラムの土台は各大学のミッションから成り立つと考えるが、これと関係して本学大学院のアドミッションポリシーは、**地域貢献**: 地域社会で保健・医療・福祉の向上における貢献を目指す人。**専門性**: 看護の専門性に基いた高度な知識と卓越した看護実践能力を修得しようとする人。**研究**: 看護実践から生じた課題を深く探求する明確な意志がある人。**指導性**: 教育・研究・看護実践活動にリーダーとして貢献する意志がある人と掲げてある。アドミッションポリシーに優先順位をつけるとすると、私自身は看護の専門性に基づく高度実践看護師の養成教育を第一に考える。この高度実践看護師の養成をめぐつても、特定看護師の制度化、これと連動して専門看護師教育課程を28単位から38単位へ移行する動きが既に始まっている。本学でもこの状況を踏まえて、大学院のアドミッションポリシーについて優先順位を含めた見直しを図り、併せてカリキュラムポリシーを明確にして、大学院の教育課程を抜本的に見直すときに来ている。教育改革の波は待たなしで、今年度は大学院においてどういった人材を養成するかの方針を決定して、来年度は平成27年度改正に向けてカリキュラムを検討するときに来ている。

看護学教育の課題は様々ある。大学の急増に対応する看護教員の量・質の充足の悩みは本学に限らず、いつまで続くのだろうか?等々。老骨鞭打ち今少しは看護大学の教育改革に貢献したいと思っている昨今である。

\*GP: 大学が実施する教育改革の取組の中から優れた取組 (Good Practice) を選び文部科学省が支援するもの。略してGPという。

## 新入生の メッセージ

1年生

私たち一年生がこの新潟県立看護大学に入学してから約二ヶ月が経ちました。入学した当初、新しく友達ができるか、勉強についていけるかなど不安を感じていました。しかし、本格的に授業が始まり大学生活を送るにつれてそのような不安は消えていき、今では楽しく充実した生活を送っています。

私には将来はこの上越市で訪問看護師として地域に貢献したいという目標があります。現在、日本で高齢社会が進行しているように上越市でも高齢者の割合が高く、在宅での看護ニーズが高まっています。一人暮らしの高齢者はもちろん、体の不自由な人の生活を看護師の立場から支援したいと思いました。今はまだ大学受験の際に調べた少しの知識しかありませんが、これから学ぶ訪問看護に関する授業にも、一年生の授業にも意欲

院生

私は、脳外科・神経内科病棟勤務を経て、現在は高齢者の多い内科病棟勤務と訪問看護をしています。今までの看護師経験の中でオムツ交換をする機会が多かったこともあり、昨年度オムツフィッター1級の資格を取得しました。そして、よりよい排泄ケアを提供したいと思うようになり、オムツを使用する機会の多い高齢者や彼らを取り巻く環境を学ぶことが必要と感じていました。昨年の本学の公開講座にて、現在の老年看護学を教えてくださいと先生に講義を聞いたことをきっかけに、老年専門看護師を目指そうと決心し、大学院進学を決めました。

大学院に入学し、自分の見える世界が広がり、知りたいことや挑戦してみたいことが増えました。また、今までの看護師人生の中で知らずに通り過ぎてしまっていた知識が沢山あることがわかってきました。看護研究や看護政策論は避けて通ってきた分野ですが、実際に学んでみると、よりよい看護するには必要で学ぶほどに興味を持てるようになってきました。

的に取り組んでいきたいと思います。

高校までは「先生→生徒」という一方通行的な授業でしたが、大学では相互的、主体的な授業になり、学び方が違うと感じました。これからは積極的に調べ、考え、時には意見することが大切だと思います。また科目を自分で選択できるという自由が増える代わりに、責任が大きくなり個人の責任が重く感じました。自分で勉強面でも私生活でも明確な目標を設定し、何事にも意欲的に取り組み社会性や豊かな人間性を身に付けられるように努力していきたいです。

大学生活は自立への第一歩だと思います。これから卒業までの四年間で多くのことを経験し学び、自分を高めるために励みたいと思います。また、辛く苦しいことも共に入学した仲間と乗り越えながら夢を実現するために大学での四年間を有意義に過ごしたいと思います。



老年看護学では、コツコツと基本的なことを勉強しています。老年看護において、日常生活援助の一つ一つを丁寧にやるのが高齢者の尊厳を守り、その人らしい生活を支えることにつながると実感しています。

また、大学院では異なった年代・様々な分野で働いている人が一緒に学んでいます。休み時間等に普段の仕事の様子を聞くことは、私にとってとてもいい刺激になっています。大学院生生活も3か月目に突入しましたが、仕事との両立はやはり大変です。高い志を持った、仲間と励まし合いながら頑張ります。



## 歓迎の言葉

3年生

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんはこれから迎えられる大学生活に胸躍らせている一方、不安な気持ちも抱えていることでしょう。皆さんの大学生活を楽しく、充実したものへとなるよう、在学生として少しながらアドバイスをしたいと思います。

一つ目は仲間との繋がりを大切にすることです。今、皆さんの周りには、大学受験という難関を乗り越え、同じ大学の仲間としてこれからともに歩んでいく仲間です。信頼しあえる仲間とともに多くのことを学び、体験してください。そして楽しいことは共有し、辛いことがあったときには支え合い、助け合えることが出来る仲間を作ってください。こうして出来た仲間は大きな心の支えになるはずです。

二つ目はサークルや行事に積極的に参加することです。サークルや行事に参加することで同じ学年の仲間とさらに交流を深めることが出来たり、先輩とも仲良くなれることが出来ます。また横だけではなく

縦の繋がりを得ることで、テストや実習など大学生活を乗り越えるアドバイスももらえるかもしれません。私たちが在学生もサークルや行事を通じて皆さんと仲良くなれるのを楽しみにしています。

三つ目は日々目標を持って物事に取り組むことです。これから大学生活を送る中で、学ぶこと、経験することはたくさんあります。一つ一つ自分なりに目標を持って取り組むことで、物事に対するやる気や充実感も向上することでしょう。学びや経験を密度の高いものにするためにも、目標を持つことを大切にしてください。

四年間の大学生活を有意義なものにしていくためにも、何事にも積極的に参加し、目標を持って取り組んでください。そして人との出会い、関わりを大切にしてください。どんなことでも皆さんの力に変わることでしょ。これからの四年間は皆さんの人生の中でもかけがえのないものになるはずです。後悔のないよう充実した四年間を過ごしてください。





## 「学外オリエンテーションで深まった絆」

1学年担任 竹原則子

4月12、13日、まだ残雪の残る黒姫高原において学外オリエンテーションが開催されました。この学外オリエンテーションは、入学してまだ一週間あまり、慣れない環境の中でまずは「親睦を深める」こと、そしてこれからの「大学生生活について考える」ことを主な目的として毎年行われています。

1日目はグループごとにクラフトキットを使用して作品の制作と他己紹介が行われました。各グループの作品はいずれも力作揃いで、完成に至るまでのチームワークの良さがにじみ出ていると同時に、自然と笑顔になれるすてきな作品ばかりでした。他己紹介の場面でも、会場から笑いがこぼれたり、拍手が沸き起こったりと楽しい時間を過ごしました。2日目は先輩たちが駆け付けてくれて、大学生生活についていろいろな話しをすることで、今後、看護大学の学生として生活していくことの参考になったようです。

アンケート結果から、2日間を通して「参加してよかった」とする学生は90%を超え、非常に満足度の高い有意義な学外オリエンテーションであったことがうかがえます。

短い時間ではありましたが、1学年全体が深い強い絆で繋がったように感じました。この絆を大切に切磋琢磨しながら、これからの看護の道を歩んでいってほしいと思います。



副理事長 戸北 凱 惟

もの心ついた頃は九州の最西端の長崎県にいました。そして、昭和44年に初めて新潟県に足を踏み入れた時の感動した印象として、遠景の雪山、足下のフキノトウ、光沢のある黄色いタンポポの印象はいまだに脳裏から離れません。南国の常緑樹の景色と雪国の落葉樹の景色は季節感が全く違います。遊び方も暮らしも食べ物も文化も言葉も違います。日本は狭い国土の中で地方の津々浦々まで人口が行き渡り豊かな文化があるものだと思最近気づいてきました。地域の暮らしや文化に感激することが多く、決して過疎に悩むことなく誇るべきものがあると思っています。若い頃は学会活動と学生指導に明け暮れていたのが大学の管理職について10年になると組織間の関係や多様な人間関係が増えてきます。専門の領域と全く違った人々との交流が深まります。そこから新たな発見があり違った価値のあることを実感しているこの頃です。

老年看護学 助教 安藤 亮

はじめまして、この4月より地域生活看護学領域・老年看護学の助教としてお世話になっています。僕は群馬の大学を卒業後、都内の大学病院で勤務したのち再び大学院進学の為群馬に戻り、この春大学院を修了してこちらに移ってまいりました。もともと新潟市の出身であり、長岡にも少し住んでいたことがありますが、上越は観光で数回訪れる程度であり、初めての土地です。しかし、同じ県内だからか、見慣れた田園風景や妙高の山々を見ると不思議と心が落ち着き、しみじみこの地に着任できてよかったと感じております。

また、まだ始めて間もないですが、趣味の一つにマラソンがあるので、高田公園の周りをジョギングをしたり、機会があれば新潟や長野で行われるレースにも参加できたらと思っています。冬に関してはもう何年もしていないのでかなりブランクがありますが、せっかくスキー発祥の地、上越に来たからにはグレンデに繰り出し、久しぶりにスキーをしたいと考えております。この他にも上越は海にも山にも恵まれている場所なので釣りや登

私の原点は物理学のうち、磁性体や半導体の結晶作りでした。純度の高い結晶作りを争っていた時代で、その頃の応用で成功した事例はノーベル賞の江崎ダイオードでしょう。今でも金属などの新素材の開発では日本は世界をリードして来ていると思っています。その後、私は教育学に転向してフランスの科学教育政策をテーマとしてやってきました。日本の科学教育の改革や教科書編纂にも比較しながら活用しています。趣味は登山で、九州の阿蘇根子岳、祖母・傾、久住などの冬山をテント担いでよく行きました。越後高田に来てからはあこがれの山に恵まれ、妙高山や火打には20回ほど行っています。北アルプスの北岳・前穂、白馬・雪倉、北は月山・鳥海山、秋田駒ヶ岳まで行きました。富士山は遠くから見ることにしています。最近では山小屋で宿泊することはしませんが、自分の体を山に運べる間は風景、草花、山菜、きのこの写真撮影をやっています。神社仏閣も撮り始めました。私の写真集にはなぜか動物はありません。206室にいますのでどうぞお気軽に立ち寄り旅行や自然探訪のお話を聞かせてください。



山、山岳地帯を走るトレイルマラソン等にもいずれは挑戦してみたいと思っています。

さて、僕は大学院では高齢者の閉じこもりに関する研究をしておりました。高齢者の閉じこもりは要介護状態のリスクファクターとされており、身体・心理・社会的要因の複合的な関連により発生するとされています。お年寄りが住み慣れた地域で元気で暮らしていくにはどのようにしたら良いか、ということに興味を持ち、実際に高齢者の方のお宅を訪問させていただき、閉じこもりを予防する方策に関する調査を行いました。この他にも、指導教官のもとで地域在住高齢者の下部尿路症状に関する研究や、グループホームに入所されている認知症高齢者の方に対する複合的なアクティビティケアの実施とその評価に関する研究等を行いました。

研究者・教育者としてはまだまだ未熟であるとは思いますが、常に視野を広く持ち、学生と共に学びながら成長していきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いたします。



はじめまして。4月より成人看護学教員として赴任しました。群馬県出身で、これまでは看護師として勤務していました。臨床経験は、外科病棟で周手術期看護や放射線治療、化学療法など集学的治療における看護を学びました。その中で、クリティカルケア看護に関心を持ち、ICU(集中治療室)へ異動しました。救命講習インストラクターの認定を受け、高校生から医療者を対象に救命講習を行っております。東日本大震災では、災害支援ボランティアナースとして被災地へ派遣され、搬送されてくる方の救護を行いました。地震や津波の脅威と被災者の方々が受けた深い心の創を目の当たりにして、その衝撃は今も心に強く残っています。これらの私の臨床経験を今後、皆さんの学習に役立てられるよう励んでいきたいと思っております。

男性看護師は増えつつありますが数少ないのが現状です。患者移動や入浴介助といった力仕事や女性に体を見られることに抵抗がある若い男性患者への対応、その場の雰囲気や和ませるなど期待されており貴重な存在です。本学では男子学生に関われることに喜びを感じてお

ります。

勉強も大切ですが息抜きも大切だと思います。私はアウトドア派です。トレッキングやモトクロス、ロードバイクの旅などが大好きです。河原や海でBBQをしたり、単独でロードバイク沖縄縦走の旅もしました。ラブラドル・レトリバーを飼っており、一緒にアウトドアを楽しむことが夢です。今はフリスビーができることを目標に練習に励んでいます。上越市は海と山に囲まれた自然豊かな場所です。BMXの国際コースもあるため、新たに挑戦してみたいと思っています。チャームポイントは、前歯の両横にある小さい牙(矮小歯 microdont)で、ワイショウシと呼びます。珍しい歯だそうです。

まだまだ、臨床経験も浅く教育においては新米教員ですが、学生の皆さんとともに成長していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



## 領域別実習を終えて

4年生

約半年間にわたる領域別実習では、各領域で様々なことを学びました。はじめは不安でいっぱいだった実習でしたが、終えてみるとあっという間で、とても充実した半年間だったと感じます。

実習に出てまず感じたことは、学校での演習とは違い、実際に入院している患者さんを受け持つということの難しさです。常に変化する病状や身体面の変化、また、精神面の変化などさまざまなことを視野に入れ、看護をしていくことの難しさや大切さを学びました。疾患についての知識やケアはもちろん大切ですが、患者さんがどのような思いを抱えて入院生活を送っているのか、精神的なケアや患者さんの心に寄り添った関わりをすることも看護師の重要な役割であると学ぶことができました。

病院には看護師の他にもたくさんの専門職の方がいます。実習を通して様々な専門職の方が一人の患者さんに関わっていること、専門職種間でどのように連携が行われているのかをみることができました。チーム医療が大切であると多くの講義でも学びましたが、実際にどのようにして多くの専門職が患者さんをケア、サポートしているのかを学ぶことができ、チーム医療の大切さを改めて感じました。

看護を展開していくうえで大変なことや悩んだこともたくさんありましたが、実習を受け入れてくださった患者さんや、熱心に優しく指導してくださった看護師さん、たくさんの指導や相談に乗ってくださった先生方のおかげで多くことを学び、充実した実習をすることができたと感じます。また、どんな時も声をかけあって支えあいながら実習を共にした仲間や、励ましてくれる先輩方、いつも体調を心配して電話をくれた家族がいたからこそ辛かったことも乗り越え、楽しく充実した実習となったのだと思います。ありがとうございました。これから実習をする3年生のみなさんもたくさんの不安があるかと思いますが、仲間を支えあい、充実した実習となるよう頑張してほしいと思います。



## コンビニが設置されました!

5月7日に学生待望のコンビニが本学1階食堂内に設置されました。食料品はもちろん、学習に必要な文房具類等品物も充実しています。本学にお越しの際は、是非ご活用下さい。





3月15日に学部・大学院の卒業式・学位授与式が行われました。学部を卒業した93名、大学院を修了した3名が卒業証書と学位記を受け取りました。卒業生・修了生は、新たな旅立ちを迎え、本学での思い出を振り返りながらも看護者としての決意を新たにしていました。



平成24年12月18日に、平成24年度の卒業研究発表会が行われました。8期生は、実習等を通して感じた看護への興味・関心から焦点を当て探究する卒業論文の作成を行ってきました。約8か月の時間をかけて、研究成果を発表した姿は、自信に満ち溢れており、今までの努力が伝わってくるような発表でした。



3月8日に大学院学位論文発表会が行われました。院生として、探究してきたテーマに関する研究成果を堂々と発表していました。また、活発な質疑応答がされ、新たな学びと課題を得ることができたようでした。

発表された論文

- ・「高年初産の女性が子育てにおける母親としての役割を見出し幸福感を獲得するプロセス」
- ・「電気機械器具製造業従事者における睡眠の実態と関連要因」
- ・「肺がん化学療法を受けるがん患者の吃逆の出現体験と対処行動」





私は現在、新潟県立新発田病院の循環器内科・心臓血管外科病棟に勤務しています。卒業して2年目になります。心筋梗塞や狭心症、心不全などの急性期から慢性期の患者さんや、心臓疾患の手術前後の患者さんに対し、日々看護を行っています。

入職して間もなくは、看護の技術や知識にとっても不安を抱えていました。「注射はできるようになるだろうか」「患者さんの大切なシグナルを見落としているのではないか」といつも心配事ばかりでした。しかし、先輩方は私のそんな不安な様子を察知し、いつも声をかけて下さり、とても相談しやすい環境を作って下さいました。先輩方は、いつでも、どんなにささいなことでも相談に乗ってくれました。そのおかげで私は、不安をその場その場で解消することができ、安心して働くことができました。

また、看護師として働く中で、嬉しいことがたくさんありました。患者さんに「ありがとう」とお礼のお手紙を頂いたり、親しみをこめて「あられちゃん」とあだ名で呼ばれたり、自分なりに一生懸命患者さんに接することが、少しでも患者さんの回復の手助けになったのではないかと感じたときには、看護師という職業を選んでよかったと思いました。しかし、悲しいこと辛いこともたくさんありました。失敗

してしまったり、患者さんが亡くなる場面も経験しました。入職して1年間は、患者さんやその家族、先輩看護師、他職種のスタッフなどたくさんの人々と触れあい、助けられ、支えられながら、乗り越えることができました。

今は毎日、忙しい日々を送っていますが、働きたかった病院で看護師として働くことができ、とても充実した毎日を送っています。また、プライベートでも休暇を利用し、同期の仲間と旅行に行ったり、両親と温泉旅行に行ったり、リフレッシュできる時を過ごしています。つらいことも、嬉しいことも、経験するすべてのことが私の大切な一部として、蓄えられ、次のステップへ進む原動力となっています。今後は2年目の看護師として、さらに根拠がある看護ができるよう自己学習とスキルアップを図り、自分自身の感性も磨いていきたいと思っています。



▲中央が[ ]さん

## 新入職員の紹介

氏名	樺沢 清文	里方 寿雄	山本 清司	齋藤 彰夫
出身地	新発田市	上越市	糸魚川市	新潟市
前職	新発田地域振興局 企画振興部長	農林部庶務係長	農林水産部 農産園芸課	新潟地域振興局 健康福祉部
趣味	ゴルフ、運動	ボランティア	スポーツ観戦	トレーニング
抱負	新入生ガイダンス(黒姫高原)では、「シニア・プロが目標!」などと、大ボラを吹いてしまいました。それでも「シングル」を目指して、筋力アップなど体づくりから、地道に取り組んでいきたいと思えます。 大学勤務は初めてですが、我が子より若くかわいい学生たちのために頑張っていきますので、よろしくお願いします。	知の拠点である大学の職員として地域に貢献したい。	大学生2人を持つ父親です。看護大学の学生も我が子のように厳しく?対処していきたいと思えます。 よろしくお願いします。	基本的に運動バカで、仕事はできません。 毎朝、安塚までの山岳路を自転車トレーニングしています。 苦しいですが、「生」を体感できる至福のひとつです。 ただ1日のエネルギーを使い果たし、出勤時にはゾンビ状態。 これからも運動していい汗流したいですが、 仕事の冷や汗はご免!

氏名	田村 則宏	佐藤 敏子	羽深 由紀子	関口 詩織
出身地	糸魚川市	新潟市	上越市	妙高市
前職	上越地域振興局 地域整備部	上越教育事務所	一般企業	城西中学校 学校運営改善推進員
趣味	ジョギングなど	美術館めぐり	音楽DVD等鑑賞	読書、風景スケッチ
抱負	中学3年サッカー部の息子とサッカー観戦などで盛り上がっています。 大学の事など、まだまだわからない事ばかりですが、色んなことを学んでいきたいと思えます。	友人が美術館で学芸員をしていることもあり、休日は美術館へ行くことが多いです。 大学職員としていろいろなこと経験していきたいと思えます。 よろしくお願いします。	友達や娘たちとJ&K・POPライブなどでストレスを発散しています。 大学では、奨学金や就職関連の業務を担当しています。 失敗したり悩んだりしながら、多くの事を学ばせて頂きたいと思えます。	初めて経験することばかりでヒヤヒヤする毎日ですが、皆様のサポートのおかげで何とかやっています。 沢山のことを吸収しつつ、職員の一員として大学運営に貢献していきたいです。



平成25年度科学研究費採択課題一覧

1 継続課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
境原 三津夫	触法精神障害者の社会復帰支援システムの構築(23~25年度)	基盤研究C
飯吉 令枝	豪雪地帯の介護予防リスクの高い高齢者を早期発見する近隣見守りチェックリストの開発(23~25年度)	基盤研究C
高柳 智子	看護師の臨床判断を基盤とした脳卒中患者の移乗時見守り解除のアセスメント指標の開発(23~25年度)	基盤研究C
櫻井 信人	自死遺族支援グループを運営・継続するために必要な要素(23~25年度)	若手研究B
片平 伸子	小規模多機能型居宅介護における効果的な看護提供(23~25年度)	若手研究B
藤田 尚	韓国出土古人骨への自然人類学的総合アプローチ(24~26年度)	基盤B・海外
渡辺 弘之	ベトナムにおける社会復帰が困難なハンセン病(元)患者のQOLと生活支援の研究(24~26年度)	基盤研究C
平澤 則子	在宅難病患者と家族のソーシャル・キャピタルと生活満足度に関する実証的研究(24~28年度)	基盤研究C
小林 綾子	降雪地域の特性を生かした2型糖尿病患者の運動療法継続に向けた支援方法の検討(24~26年度)	若手研究B
渡邊 千春	終末期がん患者・家族への輸液療法に対する意志決定支援ガイドの開発に関する研究(24~25年度)	若手研究B
加賀美 亜矢子	認知症高齢者の排便状況に関連した行動心理症状を予防する施設ケアの検討(24~26年度)	若手研究B

2 新規採択課題

研究代表者	課 題 (期 間)	研究種目
水口 陽子	看護学生の生活調整能力育成のための食生活モニタリングを用いた学習教材の開発(25~27年度)	基盤研究C
岡村 典子	中堅看護師の就業継続に向けた管理者向け支援習得プログラムとアウトカム指標の作成(25~27年度)	基盤研究C
山田 正実	COPD患者と家族がともに取り組むセルフマネジメントを支援する教育プログラム(25~27年度)	基盤研究C
酒井 禎子	地方都市の高齢がん患者と家族の療養生活を支える「文化」を基盤とした看護モデル開発(25~27年度)	基盤研究C
高島 葉子	助産事故後の当事者間の信頼関係をつなぐ「岐分」を意識した初期対応モデルの構築(25~27年度)	基盤研究C
角山 裕美子	術後補助化学療法を受ける慢性疾患をもつ高齢がん患者のセルフケアに関する研究(25~27年度)	若手研究B



## 中堅看護師がイキイキ働くことで、 職場が明るくなる!?

基礎看護学領域 基礎看護学 講師 岡村典子

私は、中堅看護師に焦点をあてた研究を平成19年から続けています。中堅看護師の定義は実に様々で、よく取り上げられるものとしてパトリシア・ベナー博士の5段階レベル(看護師が技能を習得していく過程; Benner, 2001/2005)があげられます。この5段階レベルのうち、第4段階が中堅レベルとされており、「経験に基づき、状況を局面だけでなく全体として把握する能力を持ち、患者の状態が悪化する前に“なにか変だ”と問題に気づく知覚を持つ」看護師とされています。

私は、こうした段階にある中堅看護師の離職を防げないか、といった思いから研究を開始しました。中堅看護師の離職問題については、厚生労働省、日本看護協会も取りあげていて、仕事と生活の調和(ワークライフバランス)の推進など様々な取り組みを展開しています。

私は、中堅看護師が「仕事を続けたい」と思うためにはどのような職場だといいのか、と職場環境に焦点をあてて様々な角度から研究に取り組んでいます。例をあげますと、中堅看護師に同行して仕事内容を調査する参加観察法、そして実際に中堅看護師に話を聞くことはもちろんのこと、中堅看護師だけでなく看護師長に中堅看護師とどう関わっているかを聞いたり、

若手の看護師(臨床経験2~3年目)には中堅看護師はどんな存在かも聞いたりしています。

これらの研究から見えてきたことは、管理者からの承認や励ましが離職防止には重要であることはもちろんなのですが、中堅看護師自身に「仕事が楽しい」と感じてもらうための取り組みが必要だということです。看護師長、そして若手看護師は、中堅看護師の言動によってその日の職場内の雰囲気ガラッと変わることをあげており、中堅看護師には職場内のムードメーカーであってほしいと望んでいることが分かりました。ムードメーカーとして存在する中堅看護師がイキイキと働くことで、職場内、ひいては組織が活性化するのではないかと考えています。現在、FISH哲学(生き生きとした職場をめざす)を導入した中堅看護師対象の現任教育に取り組んでいます。中堅看護師自身が楽しいと感じながら働くことは、職場活性化という大きな効果を生むのではないかと期待しています。

文献  
Benner P.(2001)/井部俊子監訳(2005):ベナー看護論、医学書院、東京



### 1. 平成26年度 入学試験の概要

#### ■ 募集人員

入学定員	推薦入試 (新潟県内高校生対象)	社会人入試	一般入試	
			前期日程	後期日程
93名	33名	若干名	50名	10名

※ 一般入試(前期日程)の募集人員には、社会人入試の若干名を含む。

#### ■ 試験科目等

個別試験科目	推薦入試 (新潟県内高校生対象)	社会人入試	一般入試※	
			前期日程	後期日程
試験会場	新潟県立看護大学			
出願期間	H25.11.1(金) ~ H25.11.11(月)		H26.1.27(月) ~ H26.2.5(水)	
試験期日	H25.11.23(土)		H26.2.25(火)	H26.3.12(水)
合格発表	H25.12.6(金)		H26.3.7(金)	H26.3.20(木)

※一般入試を出願する方は、平成26年度大学入試センター試験で本学受験に必要な教科・科目(5教科6科目)を受験する必要があります。  
詳しくは教務学生課教務係(電話025-526-2811)へお問い合わせください。

### 2. 平成26年度 編入学試験の概要

募集人員	4名		
出願資格	次の各号のすべてに該当する者 ①看護系短期大学を卒業した者(平成26年3月卒業見込みの者を含む)、または、学校教育法第132条の規定に基づき看護系専門学校(専修学校専門課程)を卒業した者(平成26年3月卒業見込みの者を含む)。ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する(見込み)者に限る。 ②看護師免許取得者(平成26年取得見込みの者を含む)		
試験科目	看護学、英語、面接	試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	H25.7.22(月) ~ H25.8.1(木)		
試験期日	H25.8.29(木)	合格発表	H25.9.20(金)

### 3. 平成26年度 大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)入学試験の概要

募集人員	15名		
出願資格	次の各号のいずれかに該当する者 ①学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成26年3月卒業見込みの者 ②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者および平成26年3月31日までに修了見込みの者 ③外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成26年3月31日までに修了見込みの者 ④専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成26年3月31日までに修了見込みの者 ⑤大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる文部科学大臣が指定した者(昭和28年文部省告示第5号) ⑥本大学院において個別の審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で満22歳に達した者(※⑥の資格により出願しようとする者は、事前に本大学院の「出願資格審査」を受けることが必要です。)		
事前面談	出願する者は出願前に入学後の研究等について、教員と面談することが必要です。		
事前面談期間	8月入試:H25.6.10(月) ~ H25.7.12(金) 2月入試:H25.11.7(木)~H25.12.10(火)		
試験科目	英語、看護専門科目、面接	試験会場	新潟県立看護大学
出願期間	8月入試:H25.7.22(月) ~ H25.8.2(金) 2月入試:H26.1.6(月)~H26.1.17(金)		
試験期日	8月入試:H25.8.29(木) 2月入試:H26.2.3(月)	合格発表	8月入試:H25.9.10(火) 2月入試:H26.2.10(月)

※ 2月入試は、8月入試において募集人員に達した場合、実施しません。

### 4. オープンキャンパス情報

新潟県立看護大学が「どんな大学か」を知りたい皆さんのために、オープンキャンパスを開催します。  
例年、体験学習や学長室訪問、在学生との懇談など、多彩なプログラムで実際に見て、聞いて、触れて、体験していただく内容となっています。  
受験を間近に控えた高校3年生はもとより、社会人入学をお考えの方、編入希望の方、保護者の方、看護系大学へ将来進学を考えている高校1・2年生も大歓迎です。ぜひご参加ください。

開催期日	第1回:平成25年8月6日(火) 13:00~16:00 第2回:平成25年8月23日(金) 13:00~16:00
内容	①大学概要・入試概要説明 ②学長室訪問・在学生との懇談 ③体験学習 ④施設見学 ⑤個別相談 等を行う予定です。 ※内容は変更する可能性があります。
申込方法	大学ホームページをご覧ください。
申込期限	各開催日の7日前まで
問い合わせ先	教務学生課教務係 電話025-526-2811、E-mail kyoumu@niigata-cn.ac.jp

※ 詳細は大学ホームページ(<http://www.niigata-cn.ac.jp/>)をご覧ください。



公立大学法人  
新潟県立看護大学  
Niigata College of Nursing



今年も、新たな学生・院生を迎えて、3か月が経過しています。学生達のフレッシュでエネルギーに溢れる姿を見ると、私達もパワーをもらえたような気分になります。「ポルティコの広場」の担当者としても、新たに1名の方を迎えることができました。「ポルティコの広場」も学生達に負けないようパワーアップした内容になるよう、努力していきたいと思ひます。

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地  
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815  
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

入試・広報委員：渡邊・安藤